

令和2年8月6日14時00分

資料配布 近畿地方整備局

九頭竜ダム統合管理事務所

ダム下流の水害リスク情報空白地帯を解消します ～ 九頭竜ダム・真名川ダム下流水害リスク図を公表 ～

九頭竜川ダム統合管理事務所では、想定し得る最大規模の降雨による九頭竜ダム・真名川ダム下流河川の水害リスク図を公表します。

近年の水災害の激甚化・頻発化により、ダムの貯留機能を超える洪水が発生し、ダムからの放流量を流入量まで増加させる「異常洪水時防災操作」を行わなければならない危険性が増大しています。

水害リスク情報の空白地帯を解消し、避難情報の適切な発令や住民の方々の自主的な避難の取り組みを支援します。

九頭竜ダム・真名川ダム下流水害リスク図をご覧になるには、8月7日より、九頭竜川ダム統合管理事務所でご覧いただけます。

また、九頭竜川ダム統合管理事務所ホームページ【<https://www.kkr.mlit.go.jp/kuzuryu/>】からも閲覧することができます。

1. 公表するダム下流水害リスク図

九頭竜ダム、真名川ダムについて、下記のダム下流水害リスク図をそれぞれ公表します。

- ・ダム下流水害リスク図(想定最大規模(浸水深))
- ・ダム下流水害リスク図(浸水継続時間)
- ・ダム下流水害リスク図(家屋倒壊等氾濫想定区域図(氾濫流))
- ・ダム下流水害リスク図(家屋倒壊等氾濫想定区域図(河岸侵食))

<取扱い>

<配布場所>

福井県 県政記者クラブ
大野市 市政記者クラブ

<問合せ先>

■近畿地方整備局 九頭竜川ダム統合管理事務所

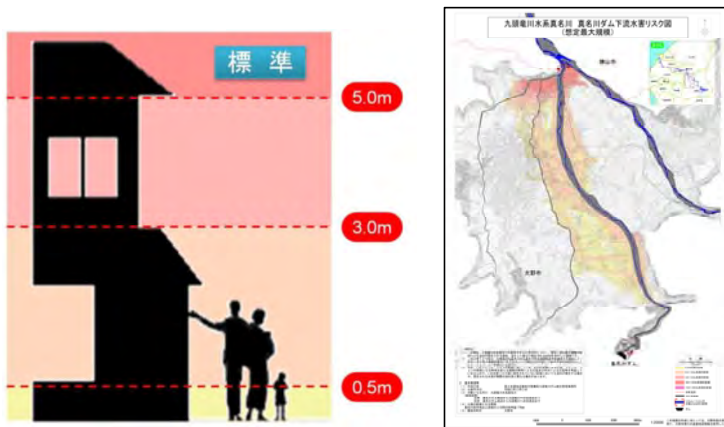
管理課長 ふくおか ひろふみ 福岡 浩史 (内線331)

電話 0779(66)5300(代)

想定し得る最大規模の降雨によって浸水することが想定される範囲と水深、その時の浸水継続時間を示した図を公表します。また、洪水時に家屋倒壊等の危険がある箇所を示した図も公表します。

浸水深図（浸水区分）

- 浸水解析結果の浸水深をランク区分に分けて表示しています。



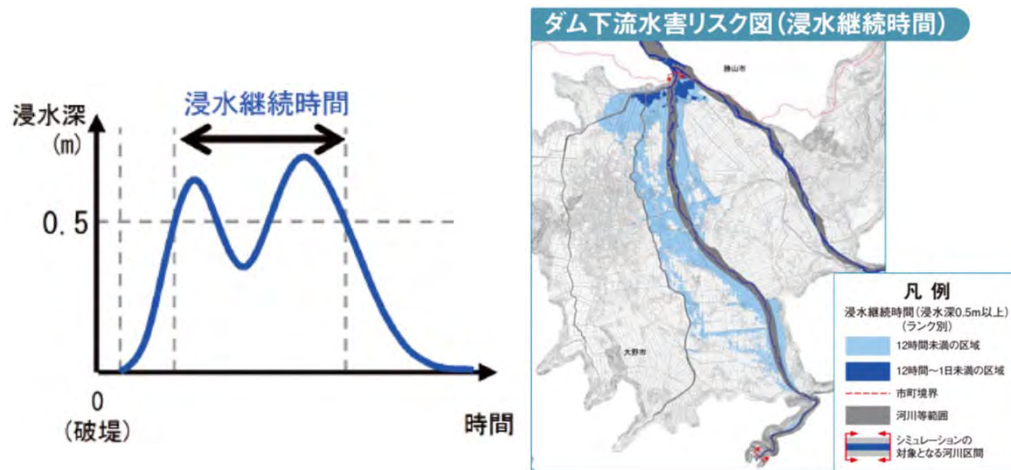
家屋倒壊等氾濫想定区域図（氾濫流）

- 洪水時の堤防決壊に伴う激しい流れによって家屋倒壊等が生じる危険性のある箇所を表示しています。



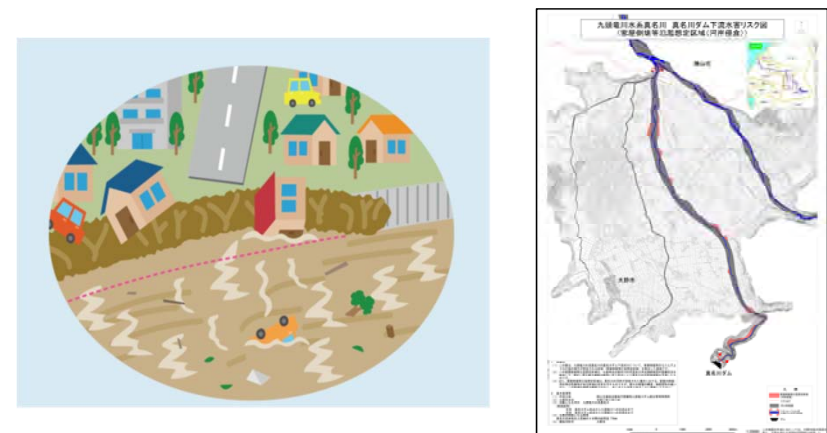
浸水継続時間

- 浸水深が0.5m以上継続する時間を表示しています。



家屋倒壊等氾濫想定区域図（河岸侵食）

- 洪水時の激しい流れによって家屋の基礎を支える地盤が流失する危険性のある箇所を表示しています。



* 浸水深0.5mは大人の移動が困難とされる浸水深の目安

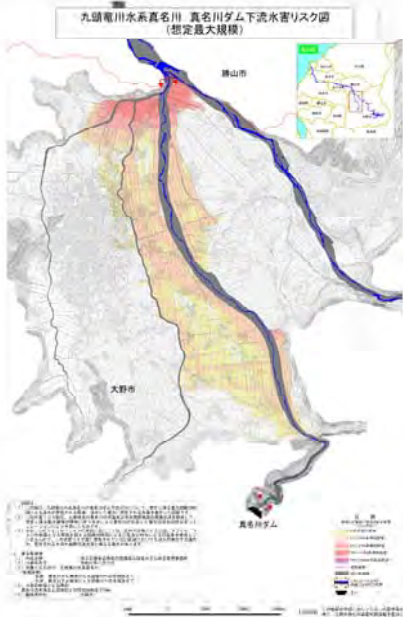
●ダム下流河川の水害リスク情報空白地帯の解消

平成30年7月豪雨では、ダム下流河川において、住民等が水害リスクを十分に認知できていない状況下で洪水氾濫の被害に遭われました。そのため、水防法に定められていないダム下流河川においても、河川が氾濫した場合の水害リスク図を公表することにより、自治体の洪水ハザードマップ作成の支援を行い、水害リスク情報の空白地帯がないようにすることが目的です。

なお、水防法に基づいて公表されている洪水浸水想定区域図と区別するために、「ダム下流水害リスク図」として公表します。



ダム下流水害リスク図の公表



ダム下流水害リスク図を公表することにより、氾濫が起こった際にどこが危険でどこに避難すると安全なのか周知することができ、迅速な対応が可能となる。

水害リスク情報の空白地帯のイメージ図



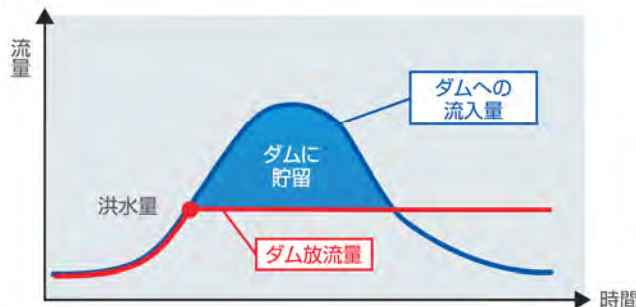
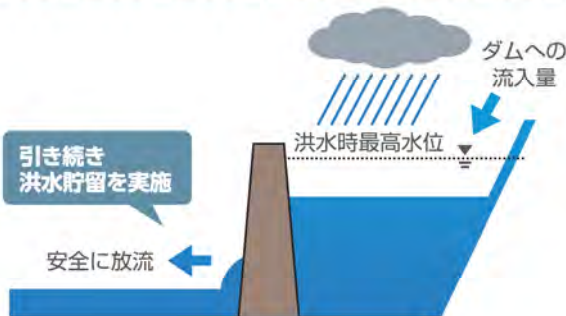
水害リスク情報の空白地帯を解消する必要がある。

●ダム下流での浸水被害の状況

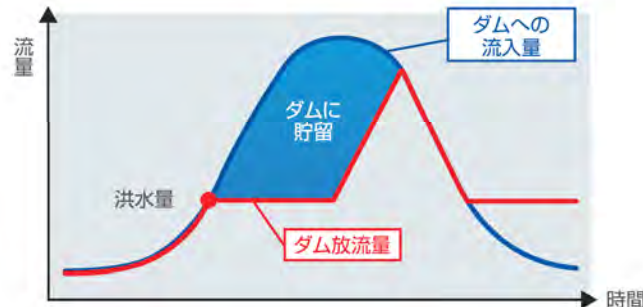
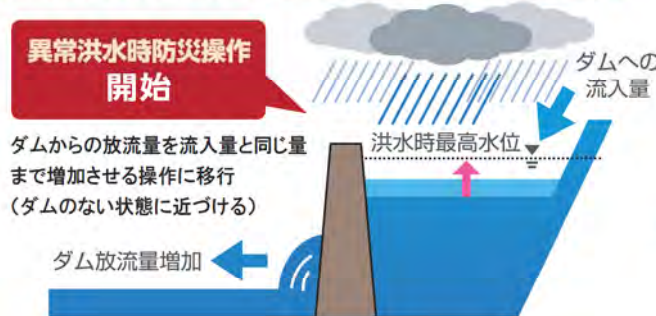
平成30年7月豪雨では、西日本を中心とした広い範囲で記録的な大雨となり、甚大な被害が発生しました。多くのダムでは、洪水貯留により被害の軽減に貢献しました。しかし、いくつかのダムでは、長時間の大雨により、洪水調節容量を使い切り、異常洪水時防災操作に移行しました。

異常洪水時防災操作を行うと、ダムでの洪水の貯留、すなわち、氾濫被害の防止・軽減のためにダムによって下流河川の水位低下を図ることがこれ以上できなくなる非常事態であり、下流河川はダムがない状態に近づき自然のままの洪水によってこれまで以上に水位が上昇していくおそれがあり、氾濫のリスクがより高まることから、沿川住民の方々には避難を判断し行動していくことを考えていただかななくてはなりません。

洪水時最高水位を**超えない**予測の場合



洪水時最高水位を**超える**予測の場合



異常洪水時防災操作とは

防災操作をしているダムにおいて、今後さらに流入量が増加し、洪水調節容量が不足してダムの洪水時最高水位を超えてしまうと予測される場合に、ダムからの放流量を流入量と同じ量まで増加させる操作のことです。

ダムの貯水位が、洪水時最高水位を超えてしまうと、ダム自体の安全性が損なわれて、ダムゲートの操作ができなくなる可能性があります。最悪の場合は、ダムが壊れてしまう恐れがあるため、ダムの洪水時最高水位を超えて、ダムに洪水を貯めることはできません。